

1

両面宿儺

りょうめんすくな

古墳時代

両面宿儺



時代 古墳時代

場所 飛騨千光寺：高山市丹生川町下保 1553

両面宿儺は高山市丹生川町が出生の地と伝わり、丹生川町の千光寺や出羽が平（現在の飛騨大鍾乳洞近辺）、日面の善久寺、武儀の日龍峰寺などに伝承がある。『日本書紀』では大和朝廷に背いた朝敵として扱われているが、飛騨や美濃の伝説では、宿儺は武勇にすぐれ、神祭の司祭者であり、農耕の指導者でもあった。

『日本書紀』に両面宿儺の戦の記述があり、仁徳天皇 65 年（377 年）、飛騨に攻め入った大和朝廷の最強の正規軍である難波根子武振熊に滅ぼされた。書記では宿儺を不具者として扱い、つづいて「掠略」（盗人）すると述べている。これに対して宿儺は飛騨の統領として相当に強大な力を持ち合わせて戦った。

当時の大和朝廷の支配は、畿内中央の最高首長が各地の有力な首長と同盟・連合の関係を結びながら、内外の軍事・外交活動を主宰し、各地の首長に貢納・奉仕を強要する形で勢力を結集していた。朝廷は宿儺に対して、飛騨の人々を引きつけて大和に参上するように求めたのであろうが、宿儺は拒否して戦ったのである。

千光寺ではその開山を両面宿儺とし、飛騨一之宮水無神社では「位山の主は両面宿儺である」と伝えられている。また日面地区の善久寺には宿儺菩薩が畏敬の念をもって祀られる。また、関市下ノ保の日龍峰寺には「蛭なし川の伝説」があり、両面宿儺が当山に住む悪龍を退治した時、悪龍の血が滝のように流れ、農民の血を吸った蛭がこれを吸って蛭は全部死んでしまったといい、今も蛭はいないという。



円空仏寺宝館



千光寺 大慈門



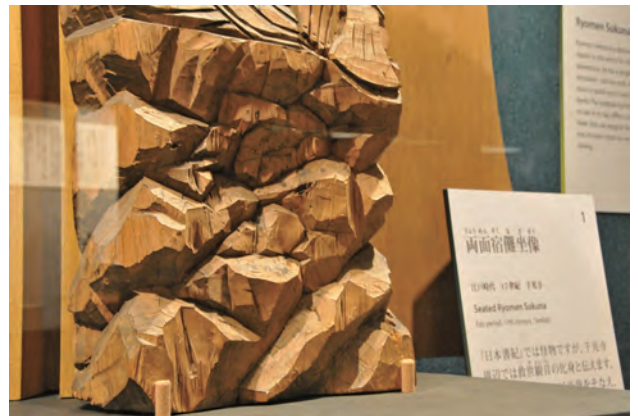
千光寺 大慈門



両面宿儺 左から



両面宿儺 上部



両面宿儺 台座

2

桜山八幡宮

さくらやまはちまんぐう

古墳時代

桜山八幡宮



時代 古墳時代

場所 高山市桜町 178

＜祭神＞ 応神天皇・熱田大神、香椎大神

末社 稲荷神社、天満神社、秋葉神社、難波根子武振熊命など

＜由緒＞ 桜山八幡宮の創建は、遠く仁徳天皇の御代にさかのぼる。

飛騨の両面宿儺を攻めた難波根子武振熊命は、飛騨への侵攻にあたって道沿いに八幡社を祀って戦勝祈願をした。八幡社は先帝（御父君）応神天皇の尊霊を祭神とする。

元和 9 年、高山の国主金森重頼は、江名子川から発見した御神像を八幡宮旧跡の桜山老杉の傍らに、応神天皇の御神体として奉安した。そこで早速社殿を再興、神領を寄進し、高山の安川以北を氏子と定めて神事を管理し、高山城下町の総鎮守社とした。

明治 25 年には飛騨国中随一の大神輿が造られ、昭和 43 年には屋台会館が造られた。昭和 51 年には総絵造りの社殿を改築。

＜祭祀＞ 例祭には金森国主より奉行正副が特派され、神事を管理せられた。奉行祭は幕府直轄となつてからも復活し、祭日には代官所が休庁となり、郡代自ら幣帛を捧げて参拝した。例大祭は金森時代には 3 年に 1 度、享保の頃は毎年 8 月 1 日に行なわれていた。

例大祭・試楽祭 10 月 7 日午後 7 時、引き続いて屋台順番抽籤祭・年行司順番抽籤祭。献幣祭（例大祭）は 10 月 9 日午前 10 時。屋台曳き揃えは 9 日表参道、宵祭 9 日午後 6 時半より、御神幸祭 10 日午前 8 時、御旅所祭同正午、還御祭同午後 5 時。試楽祭 10 月 7 日。例大祭 10 月 9 日。御神幸祭 10 月 10 日。八幡宮の屋台は現在 11 基ある。



桜山八幡宮 入口



桜山八幡宮 本殿



門から見た景色



天満神社



稲荷神社



照前神社